

# χάρισμα

## カリスマ

知っておきたいキリスト教のことば (132)

賜物 たまもの

聖書には、「霊の賜物」という言葉が出てきます。特にパウロの手紙の中に登場するこの言葉は、ギリシア語では「カリスマ」という語が用いられています。

一般的に「カリスマ」というと「特定の人に宿る特別な能力や資質のこと」で、その力を使って人々を引きつけたりする人のことを「カリスマ〇〇」と呼んだりします。(カリスマ美容師など)

しかしキリスト教で「カリスマ」とは、「神さまから与えられる霊の賜物」であり、そこには「特定の人」という言葉はつきません。つまり賜物はすべての人に与えられるものなのです。

マタイによる福音書 25 章 14～30 節に、「タラントンのたとえ」というたとえ話が載っています。この「タラントン」とはお金の単位で、1 タラントンは約 6000 万円(!)です。またこの「タラントン」という語は、「才能(タレント)」という意味も持ちます。

ある主人が三人の人に、5 タラントン、2 タラントン、1 タラントンを預けて旅に出ます。最初の二人は商売をして儲けますが、1 タラントンを預かった人はそれを隠しておき、用いませでした。6000 万円という金額を考えると、致し方ないのかもしれませんが。しかし彼の行動を見て主人は叱り、持っている物を取り上げたという話です。

タラントン(才能)とカリスマ(霊の賜物)とは、とても似ていると思います。どちらも神さまからわたしたち人間に与えられているものです。しかしそれを大事に地中に隠していても、ダメなのです。

商売をした二人のように、与えられた賜物を精いっぱい神さまのために用いるのです。そのことを神さまは望んでおられます。

自分にはどんな賜物が与えられているのか、考えてみましょう。

次回は「断食」です。お楽しみに。



「タラントンまたはムナのたとえ」  
ウィレム・デ・ポーター

(1608～1668 年)

罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

(ローマの信徒への手紙 6 章 23 節)

